

地域のランドマークでもある大船フラワーセンターが生まれ変わりました。4月1日、春の花々が喜び競う中「日比谷花壇大船フラワーセンター」として再デビュー、早朝から駆けつけた多数の来園者から、エールが贈られました。

新しい制度のもとで誕生したフラワーセンターの初代園長は、東京・夢の島熱帯植物館の館長だった榎本浩さん。花や樹木とのふれあいを深め、地域の魅力ある活動拠点に仕上げていきたいと強調しています。

植物の充実に カコブ



新生「大船フラワーセンター」

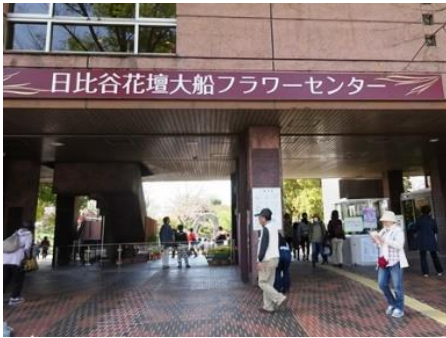
初代園長に就任した 榎本 浩さん

そうだ…植物園に行こう

大船植物園の温室が無くなるらしい!。

そんな声が聞こえてきたのは、去年の年明けすぐの頃でした。間も無くして、大船の温室が温室機能を廃止する事を知りました。それから一年、まさか自分が、その話題となった植物園の管理運営の立場になるとは、思いもよらない事でした。

申し遅れました。私は、この4月より大船フラワーセンターの園長を務めます榎本浩と申します。指定管理者制度の導入により、神奈川県のご委託を受け、我々共同企業体であるアメニスグループが、今年度より管理運営を行う事となりました。民間の管理ノウハウを十分生かし、地域に根付いた植物園を目指します。今後ともよろしくご挨拶致します。



玉縄ざくら広場も

4月のリニューアルオープンに合わせ園内の花壇拡張や桜広場の新設、エレベーター新設と園内のバリアフリー化、無加温温室を利用した展示エリアの拡張強化など、新たな空間演出が施設のハード面として整備されました。この新たな展示エリア・施設を拠点

に、我々指定管理者の持つ発想力と想像力を十分に生かした情報発信を行い、自然に足を運びたくなるような魅力ある植物園作りを心掛け努力してまいります。中でも「植物の充実」には力を入れていきたいと考えます。

地元の玉縄桜やシャクヤクはもちろんの事、加温室のバナナやブーゲンなど南方植物の温室外栽培展示チャレンジ、コーヒーや果樹など食と植物を結びつけた植物展示などに力を入れてまいります。 <鎌倉市長らとテープカット右側>



五感で感じる植物園に

また、盲障害の方をはじめ、障害を持つ方が楽しめる「五感で感じる植物園」、といった体験プログラム、小学生や保育園児を対象に紙粘土を使って実施する「子どもラン作り」といった教育普及プログラム、植物を通じ東北地方の被災地の復興応援と社会貢献を兼ねた「夢の折り鶴プロジェクト」など、植物と関わりを持つ体験プログラムなども実施してまいります。その他にも様々なイベント、セミナー等をご用意。気がつけば植物を通じ、文化や芸術が発信されるそんな施設にしていきます。最後に、「そうだ！植物園へ行こう」思い出したようにフラリ立ち寄っていただけのそんな園にまいります。皆様のお越しを心よりお待ちしております。



平成元年4月日比谷花壇造園土木入社。主に、九州吉野ヶ里歴史公園復元、皇居内新御所植栽工事といった全国の公園工事や、緑化推進事業を手掛けてきました。

平成18年に指定管理者制度により都立夢の島公園・夢の島熱帯植物館の管理を開始の後、平成23年より夢の島熱帯植物館の館長を7年間務め平成30年3月末で大船へ転任。

(1966年6月20日生れ)

<榎本さんが寄稿した玉縄地区社協だよりから転載しました>